

表1 久米通賢の分野別活動年表

元号	西暦	年齢	銃砲兵器開発	天文・測量	塩田開発(土木)	その他
享和2年	1802	22		(月蝕・日蝕の予報計算対象年はこの年より。以後、文化9年分まであり)		久米通賢、藩に召し出される
文化3年	1806	26		地平儀製作 高松藩領沿岸測量		
文化4年	1807	27	「戦船作精覚」を上梓 「武備機械鉤玄」を藩へ提出	通賢、彗星観測、結果を間重富へ報告 月食観測		
文化5年	1808	28		伊能忠敬測量隊の応接役を務める 日食観測、結果を間家に提出 五星観測		
文化6年	1809	29		高松藩天文方測量御用などを命じられる		磁鉄鉱を入手
文化7年	1810	30	鋼輪製作10挺分	日食観測		
文化8年	1811	31	大筒軋仕立横轆轤の製造	彗星観測を実施		
文化9年	1812	32	鋼輪仕立短銃製作 讚弩製作	渾天儀、天球、地球を作製		
文化10年	1813	33	阿波鉄砲鍛冶石川嘉次郎義一より鋼輪20を請取			
文化11年	1814	34	新製鋼輪仕立腰指銃を製作 腰指銃を製作			
文化12年	1815	35	鋼輪式鎗間銃製作			
文化13年	1816	36				大坂にて「養老瀧」の見世物興行
文化14年 (文政元年)	1817	37				大坂にて牛旋激水・牛曳碓兼用の機械を見世物興行、「自然水」の製作
文政2年	1818	38	銃砲製作のため、頼母子講(武器講)を結成	彗星観測を実施		
文政4年	1821	41		地平儀の製作、藩へ献上		
文政6年	1823	43	郷東川原にて砲術訓練、藩主上覧			
文政7年	1824	44	風砲製作、藩へ献上 百敵砲を製作 火矢筒「精火矢」を製作 翻傘三本開を製作 (菅真目玉筒、百目玉歩戦仕立、三百目玉筒、式百目玉筒を献上)		砂糖流通統制策、坂出開発の建白書提出	
文政8年	1825	45				高松藩主の時計を修繕 高松藩城下の物資出入を調べ、藩札引換についての策を建てる
文政9年	1826	46			坂出塩田開発のための測量に着手 別子銅山開発についての支援を依頼される 坂出西新開開発開始	
文政10年	1827	47			別子銅山水抜工事に着手	
文政12年	1829	49			坂出江尻新開・中新新開開発開始 阪出壘田の碑建立	
天保元年	1830	50	式百目玉鈎打筒輔附仕立長筒、三拾目玉鈎打真之中筒を藩へ献上			空気の重さを計算
天保2年	1831	51			塩田開発の功績を藩より賞される	
天保4年	1833	53			坂出新開完成	
天保7年	1836	56			遠江新井新港新開に関わる	
天保9年	1838	58	どんどろ附木の製造を命じられる			
天保10年	1839	59	雷汞製造実験を行い、「生歴木諸品之控」を記述 「新製自生火器図説」を記す 神雷砲、自生火器、馬上筒、長筒生火筒を藩主に献上 金15両の報奨が藩より下賜			
天保11年	1840	60	佩弾銃を製作 掌中銃＝芥砲を製作、献上 「大成眞銘」を記す			
天保12年	1841	61	久米通賢没			